


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 6 月 6 日	
所属部局・職	理学研究科生物科学専攻生物物理学教室
氏名	村上 梨紗

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
日本 屋久島
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
哺乳類の糞に集まるハエ群集の調査 (iDNA 研究に関連して)
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
令和元年 5 月 2 5 日 ~ 令和元年 5 月 3 1 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学大学院霊長類研究所 半谷准教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航では、屋久島に生息している猿と鹿の糞に集まるハエの個体数を比較した。また、それぞれの糞に集まるハエの種類も同定を行った。 具体的な方法としては、排泄されてすぐの猿の糞と鹿の糞をそれぞれ集めて、30 分間 5 分おきにハエの数を数えた。その際、データとして写真を撮り、あとでハエの種類を同定できるようにした。 この機会を得て、猿の糞に集まるハエの個体数の方が、鹿の糞に集まるハエの個体数に比べて統計的に有意に多いことが明らかになった。また、糞に集まるハエの種類は主に 5 種類で (一部、非常に小さく種類を同定することができなかったハエもいた。)、うちの 3 種類は統計的に有意に、鹿の糞より猿の糞の方を好むことがわかった。 今回の実習の結果から、一部のハエは、鹿の糞より猿の糞を好むことがわかった。このところから、ハエから iDNA を採取した際に、猿の DNA が多く含まれる、というバイアスが多いにかかっている可能性が示唆された。 この結果は、iDNA を用いた哺乳類の DNA データの解析をする際に、重要な情報となると考えられる。 私は今回の屋久島での実習を通じて、野生環境下における生き物同士の繋がりを強く感じる事ができた。鹿や猿の排泄物から栄養を摂取しているハエを見て、生き物の営みから生まれるものに無駄なものはない、ということを実感することができた。 今後の予定としては、The 10th International Seminar on Biodiversity and Evolution: Wildlife Metagenomics で今回のフィールドワークで得られた研究成果を報告する予定である。

猿の糞に集まるハエを撮影したデータ
※メンター (PWS プログラム指導教員) が確認済の報告書を【 report@wildlife-science.org 】宛にご提出ください。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

--